

TOPPAN、「BioJapan 2026」に出展

バイオ・ライフサイエンス領域の研究・開発・製造における色データの信頼性・一貫性を
実現する「色のデータトレーサビリティ構想」を紹介

TOPPAN ホールディングスのグループ会社である TOPPAN 株式会社(本社:東京都文京区、代表取締役社長:野口 晴彦、以下 TOPPAN)は、2026 年 10 月 7 日(水)から 9 日(金)に開催される「BioJapan 2026」(会場:パシフィコ横浜)に出展します。

「BioJapan」(1986 年～)は、世界で最も歴史のあるバイオテクノロジー展です。同時開催される「再生医療 JAPAN」、「healthTECH JAPAN」とともに、アジア最大級のパートナーリングイベントとして、多くの企業・スタートアップ・アカデミア・研究機関が参加し、グローバルなオープンイノベーションが行われています。

TOPPAN ブース(展示会:BioJapan、小間番号:C-37)では、これまで培ってきたカラーマネジメント技術(※1)に基づく「色のデータトレーサビリティ構想」を紹介します。医療、食料、環境などを研究・応用分野とするバイオ・ライフサイエンス領域の研究・開発・製造工程において、培養液や試薬の微細な色変化は、品質や状態を的確に把握するための重要な指標です。しかし、色情報のデジタル保存や標準化は難しく、目視評価の属人化や、再現性の低下、データ活用が課題となっていました。このような客観的な色データ活用・管理というニーズに対し、TOPPAN が持つ CMS(カラーマネジメントシステム)を活用したサービスを基盤として、色が持つ豊富な情報を正確に記録・解析し、色に関連するデータの信頼性と一貫性の確保による品質管理や DX 推進を支援します。

また、アネックスホール(F204)において、「細胞外小胞を利用した医療応用の新たな未来」をテーマとしたランチョンセミナーを実施します。



色のデータトレーサビリティ構想

■ 展示内容

テーマ:「色のデータトレーサビリティ構想」

バイオ・ライフサイエンス領域の研究・開発・製造における色に関わるデータの信頼性と一貫性を確保する新たなプラットフォームを提案します。バイオ・ライフサイエンスの研究・開発・製造現場において、試薬などの微細な色変化は重要な指標です。TOPPAN が提案する「色のデータトレーサビリティ構想」は、検査サンプルから色の情報をデジタルデータ化することで、サンプルの退色や環境光の違いによる判定結果のばらつき、アナログ記録に伴うデータ改ざんや記録ミスなどのリスク低減に寄与します。こうした色情報の取得・管理環境の提供により、学会発表や論文、品質管理などにおいて、共通のエビデンスとし

て活用できる環境の実現を目指します。

・**撮影環境の影響を抑えデジタル画像を正しく色補正する技術「CAM-FIT®」**

撮影環境（照明や影、明暗など）に左右されず、対象物の本来の色に変換するソフトウェア「CAM-FIT®」を用いた検査・DX・製造・DXソリューションを提案します。「CAM-FIT®」の活用により、従来、照明などの環境依存・撮影端末の違いにより、バラつきがあった撮影画像データの正確かつ客観的な色情報の保存が可能となり、デジタル画像による高度な色管理と活用を可能にします。遠隔医療での適切な患部確認や、製造・研究現場における製品やサンプルの色管理・情報共有への活用方法を紹介します。

・**「CAM-FIT®」を用いたスマホアプリによるラテラルフローアッセイの定量化技術**

紙ベースの媒体で簡便・迅速に対象物の測定が可能なラテラルフローアッセイ（※2）において、スマートフォンで撮影した検査紙の画像を「CAM-FIT®」で補正し、検出結果を数値化する技術およびアプリケーションを紹介します。また、その実例として細胞外小胞（エクソソーム）（※3）をイムノクロマト法（※4）で検出する独自技術と、本特許技術を活用した研究用試薬キット「Exorapid-qIC®細胞外小胞用イムノクロマトキット」（大日本塗料株式会社より販売）の展示や共同研究の取り組みを紹介します。

TOPPAN のカラーマネジメントシステム サービスサイト URL:

<https://solution.toppan.co.jp/creative/service/colormanagementsystem.html>

■ **セミナー概要**

セミナータイトル	細胞外小胞を利用した医療応用への展開 ー最前線研究と3者共創が切り拓く新未来ー
日時	2026年10月9日(金) 11:30～12:30
会場	アネックスホール F204
内容	TOPPANは、画像解析技術を応用したラテラルフローアッセイの測定技術を中心に、これまで培ってきたカラーマネジメント技術による医療応用への可能性、製造における品質保証への利用可能性について紹介します。また、名古屋大学医学部附属病院 / 名古屋大学高等研究院の横井 暁 先生による細胞外小胞の最前線の研究についての講演と、大日本塗料よりラテラルフローアッセイ(LFA)に関連する材料開発と実例、細胞外小胞検出キット「Exorapid-qIC®」について紹介します。また、3者の共同研究結果に基づく、細胞外小胞の新たな医療応用の可能性について紹介します。
登壇者	・名古屋大学医学部附属病院 / 名古屋大学高等研究院 講師 横井 暁氏 ・大日本塗料株式会社 スペシャルティ事業本部 新事業開拓部 宮澤 雄太氏 ・TOPPAN 株式会社 情報ソリューション BU 情報系印刷事業部 技術開発本部 CMS 技術部 勝亦 優

※ランcheonセミナーの聴講は、公式ウェブサイトでの登録が必要です。

https://biojapan2026.jcdbizmatch.jp/Lookup/jp/Seminar/u0?_gl=1*1w0feq1*_gcl_au*MTIzODgyMjAxMi4xNzg4NDEyNDE2

■ 展示会概要

名称: BioJapan 2026 (「再生医療 JAPAN 2026」「healthTECH JAPAN 2026」と3展同時開催)

会期: 2026年10月7日(水)～9日(金) 10:00～17:00

場所: パシフィコ横浜

(TOPPAN ブース: 展示会「BioJapan」、小間番号: C-37)

主催: BioJapan 組織委員会

(代表組織団体: 一般財団法人バイオインダストリー協会)

株式会社 JTB コミュニケーションデザイン

同時開催展: 再生医療 JAPAN 2026、healthTECH JAPAN 2026

公式サイト: <https://jcd-expo.jp/jp/>



※1 カラーマネジメント技術

ディスプレイやプリンタ、印刷など異なるデバイス間において色の調整を行い、表示・再現色の統一を図るための技術。

※2 ラテラルフローアッセイ

略称は LFA (Lateral Flow Assays)。紙ベースの部材を用い、検体を滴下するだけで簡便・迅速に対象物の有無を判定できる試験法。

※3 細胞外小胞 (エクソソーム)

様々な細胞から分泌される微小な小胞 (細胞外小胞) の一種。タンパク質や核酸などを含み、細胞間情報伝達に関与する。

※4 イムノクロマト法

抗原抗体反応を利用して特定の物質を簡便に検出する手法。ラテラルフローアッセイの一種で、妊娠検査薬や感染症検査キットなどに広く応用されている。

* 本ニュースリリースに記載された商品・サービス名は各社の商標または登録商標です。

* 本ニュースリリースに記載された内容は発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。

以 上